

「青少年の健全な育成のためのセミナー」開催概要

平成 21 年 9 月 1 日
財団法人神奈川県スキー連盟

1. セミナーの名称

青少年の健全な育成のためのセミナー

ー例えば、「ネットいじめ」、できることは何かないのかー

2. 開催の背景

「いじめ」により青少年が自らその命を絶つ痛ましい事件が依然として発生し、大きな社会問題になっています。平成 18 年 11 月、文部科学大臣から青少年と大人社会一般に対していじめの問題について呼びかけをおこないました。1 通目のお願いは「未来のある君たちへ」として、いじめる側、いじめられる側、それぞれの青少年に向けて、厳しくそしてあたたかいメッセージが書かれています。

文部科学大臣からのお願い

未来のある君たちへ

弱いちがばの友だちや同級生をいじめるのは、はずかしいこと。
仲間といっしょに友だちをいじめるのは、ひきょうなこと。
君たちもいじめられるちがばになることもあるんだよ。後になって、なぜあんなはずかしいことをしたのだろう、ばかだったなあと思うより、今、やっているいじめをすぐにやめよう。

いじめられて苦しんでいる君は、けっして一人ぼっちじゃないんだよ。
お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、きょうだい、学校の先生、学校や近所の友達、だれにでもいいから、はずかしがらず、一人でくるしまず、いじめられていることを話すゆうきをもとう。話せば楽になるからね。きつとみんなが助けてくれる。

平成十八年十一月十七日

文部科学大臣 伊吹 文明

そして、2通目のお願いは「お父さん、お母さん、ご家族の皆さん、学校や塾の先生、スポーツ指導者、地域のみなさんへ」として、青少年にかかわる大人社会一般に向けて、青少年をどうか見守ってほしいと、切実なメッセージが書かれています。

文部科学大臣からのお願い

お父さん、お母さん、ご家族の皆さん、学校や塾の先生、スポーツ指導者、地域のみなさんへ

このところ「いじめ」による自殺が続き、まことに痛ましい限りです。いじめられている子どもにもブライドがあり、いじめの事実をなかなか保護者等に訴えられないとも言われます。

一つしかない生命。その誕生を慶び、胸に抱きとった生命。無限の可能性を持つ子どもたちを大切に育てたいものです。子どもの示す小さな変化をみつけるためにも、毎日少しでも言葉をかけ、子どもとの対話をして下さい。

子どもの中の心に自殺の連鎖を生じさせぬよう、連絡しあい、子どもの生命を守る責任をお互いに再確認したいものです。

平成十八年十一月十七日

文部科学大臣 伊吹 文明

そして、スポーツ指導者である神奈川県スキー連盟は、深刻ないじめ問題に傍観することなく、出来る限りの取り組みを講じていきたいと考えております。

3. 神奈川県スキー連盟の取り組み

神奈川県スキー連盟競技本部ではスキー界の指導者として「世界に羽ばたく選手を育成」する一方で、平成18年度より「健全な青少年の育成」について積極的に取り組んでいます。その一貫として「いじめ」について、平成19年5月の八幡平合宿の中で参加した41名の子供たちと「いじめ」について話し合い、積極的な意見を聞く事が出来ました。いじめを目撃したことのある参加者は半分以上。しかしながら、目撃をしながらそれをいさめた例はたったの3人。その後の討論の結果、ほとんどの参加者が賛同をし、「いじめをしない、いじめには関わらない」という認識を持ちました。「私の学校には去年の10月か

ら不登校の男子がいます。早くいじめ問題がなくなってくればいいです。」「自分はイジメはよくないと思っても止めることはできませんでした。人とうまく付き合っていくことを教える必要があると思う。」「からかっていたつもりだったが、自分がイジメていることに後で気づいた。一人一人それぞれ考え方に違いがあるので、信頼関係を築くことができればイジメはなくなると思う。私はこれから絶対にイジメはしない。」などの声を聞くことができたのは話し合いの成果であり、話し合いの大切さを知ることとなりました。

4. セミナーの趣旨

本セミナーは、これらの問題に対処するために、学校、保護者のみならず、企業、民間団体など地域の大人たちの知見を深める機会の場として、開催するものです。

平成18年度以降、関係者による誠意ある取り組みの結果、いじめは少しずつですが減少してきました。文部科学省の調査によると、平成20年度の「いじめ認知件数」は全国72,778件、神奈川県は3,779件（小学校1,238件、中学校2,358件、高校172件、特別支援学校11件）でした。1,000人あたりの認知件数は全国平均5.1件、神奈川県は4.1件でしたので、全国平均からはやや少ないのですが、油断はできません。

一方、法務省の調査によると平成21年中の「学校におけるいじめに関する人権侵犯事件数」は1,787件と数年前より減少したものの、依然として高い水準にあります。

ところが、最近では新しいいじめ「ネットいじめ」が蔓延しています。大人の目の届かないところで発生し、当事者は深刻に悩んでいるにもかかわらず、取り返しがつかなくなるまで発展した頃に、警察などに相談が寄せられています。携帯電話などでインターネットを介したトラブル・犯罪被害に青少年が巻き込まれるケースが後を絶ちません。平成22年3月、島根県の男子中学生がインターネットの動画サイトに、男子同級生が数人からいじめを受けている映像を投稿しました。動画は学校の指示により削除されましたが、関係者は「いじめと認識しており、重く受け止めている。生徒の心のケアに努めたい」としています。また、5月には岐阜県の中学1年の女子生徒が、同中学2年の女子生徒数人に携帯電話のカメラで衣服を脱がされて手足を押しやるなどした裸の写真を撮影され、メールで送信されるいじめを受けました。「最初はいたずら半分だったが、いやがる姿が面白くなってきた」と話したそうです。

悪口やいたずら目的のツールとしてインターネットが使われるようになると、

青少年をどう守ればよいのでしょうか。いえ、青少年が暴走しないためにはどうすればよいのでしょうか。

青少年の実態について専門家より生々しい事例を中心にお話いただき、青少年の実態からわかること、そして私たちが出来ることをお話したいと思います。

5. スポーツについて

青少年期は、好奇心にあふれ、希望に満ち、失敗や挫折を繰り返しながらも挑戦を続け、自立するための基礎を養う成長過程時期です。その自分に対する意欲が、スポーツや芸術など多様な趣味に打ち込むことにより、満たされれば喜びを見出すことができます。スポーツほどやる気に対する正直な成果があらわれるものはありません。そして、忘れてはならないのは、自分以外の周りの人間や社会に対して広い視野で見て、自分がスポーツをすることができる感謝、友達や家族等との関係の大切さに、スポーツを通じて気づいていくものだということです。私たちは、スポーツができる喜びだけに甘んじているのではなく、社会貢献に関してもスポーツ界のリーダーとして目を向けていく必要があると考えます。

なお、スポーツの語源は、英語「sports」からの外来語で、「sport」は「気晴らし」や「楽しみ」「遊ぶ」などを意味する「disport」が変化した言葉です。競技や体力増強を目的とするだけでなく、心身の健全な育成のためには、スポーツが効果的ということをお話したいと思います。

6. セミナーの概要（予定）

開催月日：平成21年11月14日（日）

開催場所：神奈川県社会福祉会館

主催：財団法人神奈川県スキー連盟

後援：神奈川県高等学校スキー専門部

財団法人インターネット協会

他交渉中

プログラム

午後13時～ 主催者挨拶

財団法人神奈川県スキー連盟会長

午後13時10～ 講演「ネットいじめの実態と対策」～知っておきたい私たちが出来ることとは・・・

インターネットやメールの“冷たい文字”は、悪口がストレートで、口でいわれるよりも辛さが増します。だれが書いたか分からないものは、想像することが怖くなります。大人でも耐え難い、怒り、悲しみ、恐怖。事例を中心に落とし穴にはまらないためにはどうしたらよいのかをお話します。

講師：財団法人インターネット協会 主幹研究員 大久保貴世氏
プロフィール：

専門と略歴：Mac インストラクター、メーカーお客様相談室を経て、1995年より現職。インターネットのルール&マナーの啓発、フィルタリング普及啓発、インターネットホットライン連絡協議会にてトラブル相談、インターネット・ホットラインセンターにて違法有害サイト受付対応、などを担当。

委員：文部科学省「学校ネットパトロールに関する調査研究会」、警察庁「総合セキュリティ対策会議サイバーボランティア育成分科会」など。

執筆：「月刊生活指導」「ネットいじめ・言葉の暴力克服の取り組み」「朝日中学生ウィークリー連載」、NHK 教育テレビ出演など。

午後15時00～ 「いじめ」は止めよう宣言 選手代表

5. 事務局・問い合わせ

財団法人神奈川県スキー連盟事務所 担当（菊地 富士夫）

〒221-0834

神奈川県横浜市神奈川区台町16-1

ソレイユ台町407号

TEL:045(311)8907

FAX:045(324)6966

Email:jimu@sak.or.jp

http://www.sak.or.jp/